

県内の飲食店における 伊勢茶の普及について

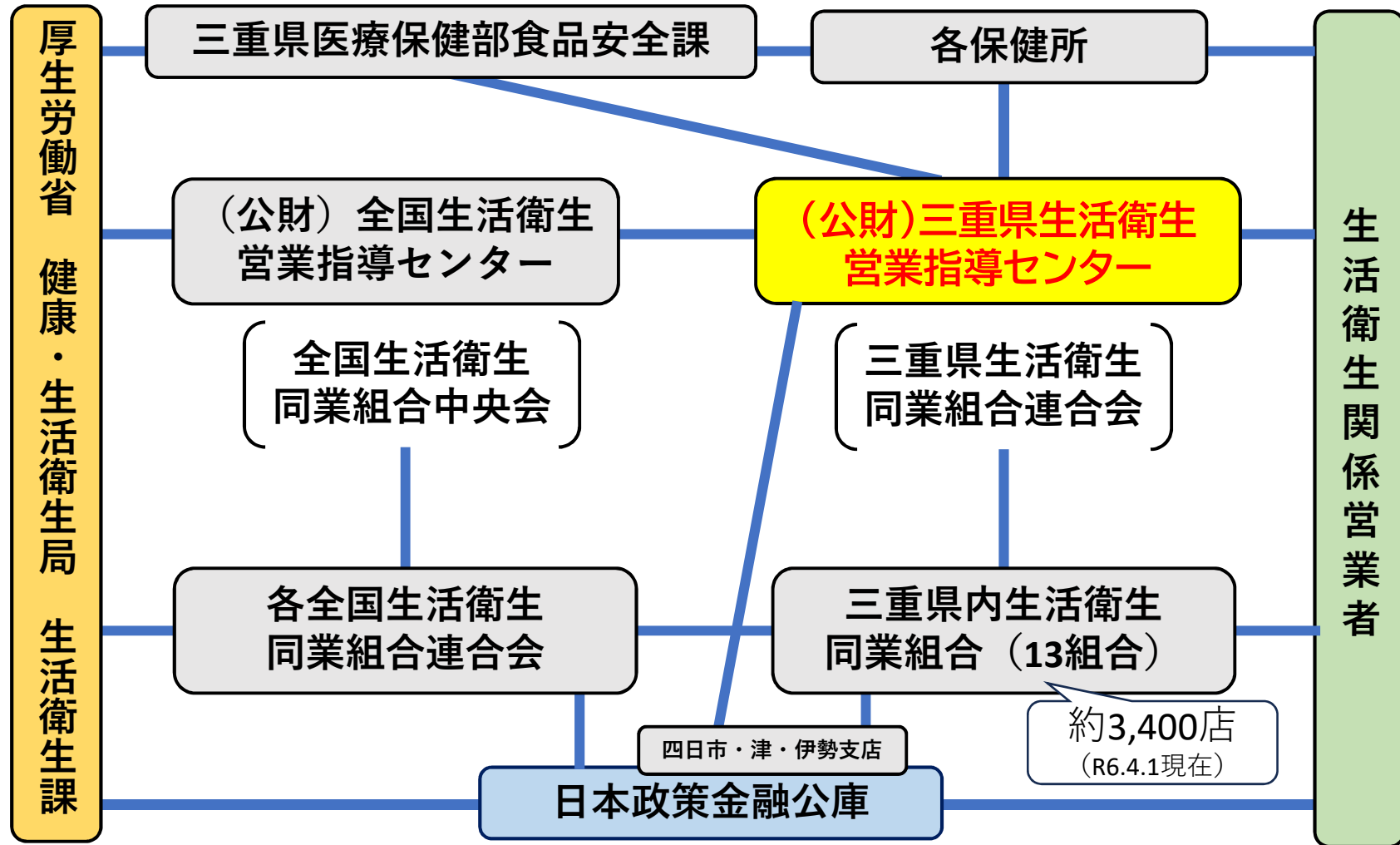
令和6年8月22日（木）

（公財）三重県生活衛生営業指導センター

専務理事 藤川 和重

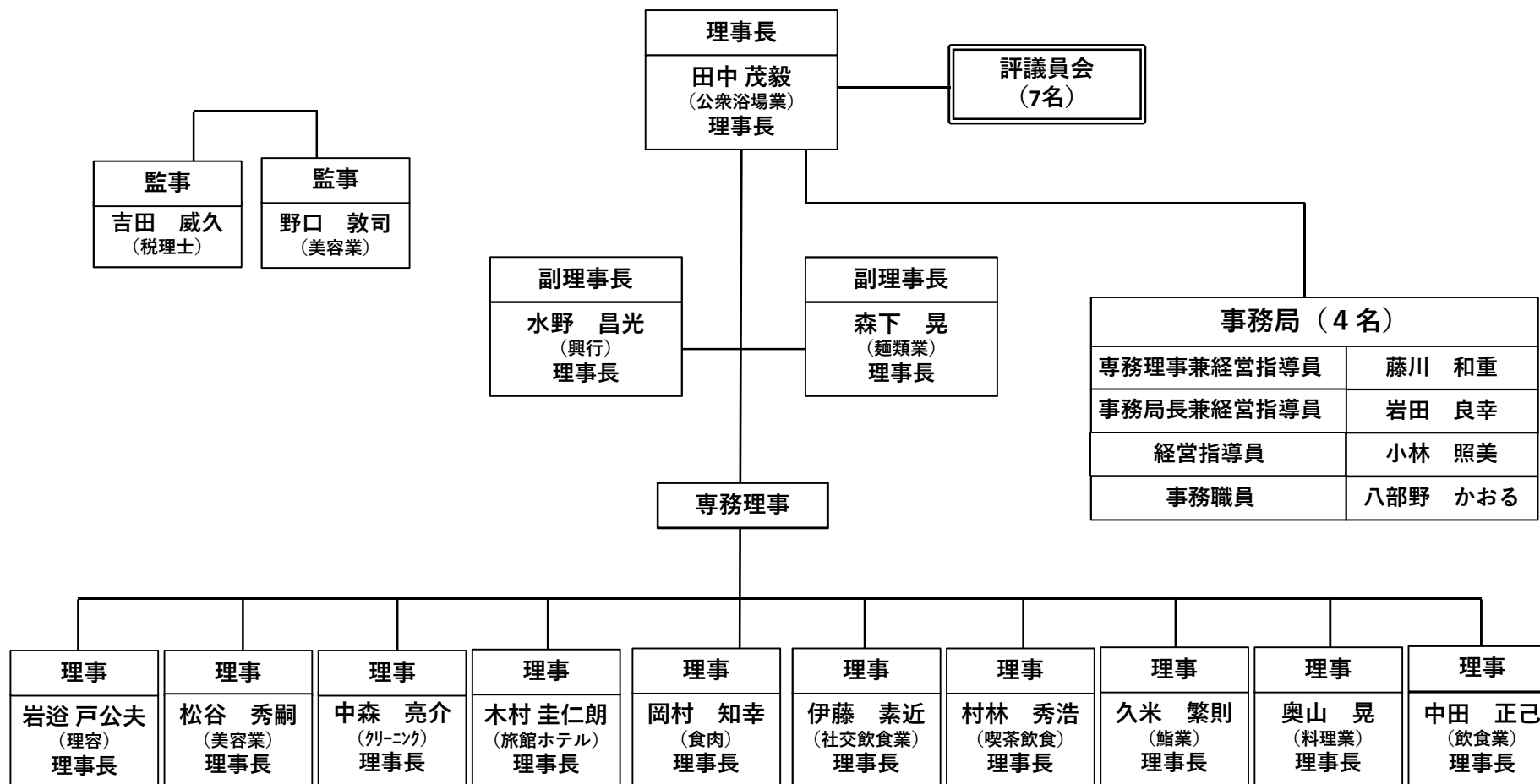
(公財)三重県生活衛生営業指導センターのご紹介

生活衛生関係営業に係る行政組織図



公益財団法人 三重県生活衛生営業指導センター 組織機構図

令和6年8月1日現在



(公財) 三重県生活衛生営業指導センター事業 (主な取組)

- ①経営・税務・デジタル化、衛生面等の相談・指導について、**地域での巡回相談体制や専門家と連携した相談体制も整備**しながら、各生活衛生関係営業者(以下、「生衛業者」)のニーズに応じた**伴走型支援**を実施しています。(各店舗の情報収集に注力)
- ②税務研修会、**デジタル化講習会等専門的なセミナー**などを開催し、生衛業者の資質向上に努めています。
- ③当センターや生活衛生同業組合連合会のホームページにより、「**タイムリーにわかりやすく**」をモットーに、生衛業に役立つ最新情報やイベント情報などを提供しています。
- ④行政や各生活衛生同業組合(生衛組合)と連携して、感染症対策をはじめ、地域の健康・福祉に関する取組を推進しています。特に最近では、**市町が実施する地域包括ケアシステム構築に生衛組合が連携して参画できるように企画・調整**しています。また、各組合が連携した取組を支援するなど、こうした取組を進めることで、各組合の機能強化・活性化につなげていきます。
- ⑤災害時などに、県民が必要とする生活衛生サービスが速やかに提供できるよう、行政との連携体制を構築しています。
★災害時における被災者の生活衛生の確保協定(県・13組合・指導センター)令和6年6月25日締結
- ⑥消費者懇談会を開催するほか、クリーニング研修の実施や標準営業約款(理容業、美容業、クリーニング業、めん類飲食店営業、一般飲食店営業)登録支援などにより、消費者・利用者の利益を守っています。

三重県内の生活衛生営業同業組合について

生活衛生業は、「生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律」（生衛法）で規定する業種で、理美容業、クリーニング業、旅館業、飲食業など18業種の営業の総称、三重県内には13業種の組合があります。



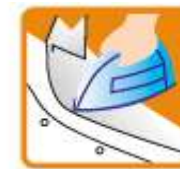
理容店



美容店



公衆浴場



クリーニング店



興行場



旅館ホテル



食肉販売店



社交飲食店



めん類店



喫茶店



すし店



料理店



飲食店

生衛法に基づいて設立された生衛組合は、組合員・業界のためだけでなく、利用者・消費者、地域社会、地域経済、行政に貢献する組織です。



「せいえいみえちゃん」

生活衛生同業組合(飲食関係)への聞き取り結果等から

- 生衛組合 (飲食関係) 総会等での意見交換
- // 理事長ヒアリング など

(伊勢茶の認識、伊勢茶の利用促進等についてうかがいました。)

1 伊勢茶の持つイメージなど

【1 不正確な認識】

- ①伊勢茶ブランドには「かぶせ茶」など、「美味しいが高い」というイメージがあり、普段使いとしては難しい。(思い違い)
- ②「鈴鹿抹茶」や「四日市かぶせ茶」、「度会茶」など色んなネーミングがあるが、伊勢茶との違いが判らない。(思い違い)
- ③以前から県農林水産部が宣伝用に美味しいお茶を持ってきてPRしてくれるが、あれが「伊勢茶」と思い込んでいた。(思い違い)
- ④県産品の「ほうじ茶」が「伊勢茶」であるとの認識はなかった。
(伊勢茶=緑茶というイメージ)
- ⑤伊勢茶独自の効能やメリットがお客さんに伝われば伊勢茶を使う意義を感じるが、具体的なエビデンスはあるのでしょうか。

【2 県内産茶の利用】

- ①お店で出すものは県産品を使いたいので、積極的に県内産のお茶を購入している。
- ②意識したわけではないが卸業者が持ってくるのは県産品茶である。(①②複数回答有り)

○このように、一部で誤った認識も見られますが、一方で、積極的(無意識)に伊勢茶を利用しているケースも多くあるのではないかと推察できます。

2 伊勢茶利用に向けての課題

- ①現在、卸売業者が持ってくるのは値段の安い他県産のお茶である。既に流通面での関係性が成立しており、正直に言って、同等の県産品があっても、今更、変更するのは煩わしい。県産品に変更したほうが良い、という大きなモチベーションが必要になる。(メリットでなくてもよい。三重県が推奨している等)
- ②テイクアウトのお弁当にペットボトルを付けているが、大手メーカーで大量に仕入れた方が安く手に入るし、イメージもよい。伊勢茶ペットボトルもあるが、高コストだし、ブランドイメージも低い。
公衆浴場でもペットボトルのお茶は良く売れるが、同じ理由で伊勢茶を取り扱うことは難しい。
- ③ランチで出すお茶はスーパーマーケットで購入するが、使い勝手の良いティーバッグは他県産のものが多く、かつ安価である。
- ④色々なお茶を試してみたが、〇〇県産茶が美味しくて値頃感もあり、使っている。(個人の感覚)
- ⑤飲食店で出すお茶は無料なので大きな費用はかけられない。
県産品利用を促進するためには、購入費用に対する支援があると良い。

○伊勢茶利用の課題として、コスト面やブランドイメージの無さをあげる意見が多くみられました。
また、入手経路について、様々なところで購入可能とするなど、工夫が必要と感じました。

3 伊勢茶の普及・利用促進に関して

- ①実際のところ、高価な茶葉でない限り、静岡のお茶でも県内のお茶でも値段も味も大差なく、卸売業者との交渉結果で決めていることも多い。県などから県内卸売業者に対して、伊勢茶利用をPRしてもらえれば、利用促進になるのではないかな。
- ②消費者の認知度が低いのが原因ではないか。JA等が県内米をPRしているように、県やJAが伊勢茶のPRをすると良いのではないかな。
それにあわせて、各飲食店でも、伊勢茶PR用ポスターやポップなどを貼ったり置いてもらえば消費者の理解度向上、普及が進むのではないかな。
- ③官民連携による「伊勢茶応援団」のような利用促進のための取組もあるが、会員の多くは流通、販売業者が中心となっている。
飲食関係の組合店舗は1,000店舗以上あるわけだから、各店舗に協力してもらって周知を図ればもっと消費者の理解が深まるのではないかな。
どこかのレストランチェーンとコラボできないか。（飲食店へのアプローチ）
- ④伊勢茶利用加速化キャンペーンなども実施されているが、県内全域で伊勢茶利用を進めるためにも、もっと大規模なキャンペーンが必要ではないかな。

○例えば、まず、伊勢茶を利用している店舗に協力を依頼し、伊勢茶の良さをPRしていただきます。
まだ利用していない店舗に対しては、県条例制定にあわせて、卸売業者や各店舗に伊勢茶利用を働きかけ、伊勢茶を購入してもらうような大規模な取組(キャンペーン)を進めていきます。
いずれにしても利用促進のためには、PRのほか、購入メリットを提示する必要があるため、一定の財源確保が必要と考えます。

伊勢茶PRのイメージ(案)

